

## 海軍国オーストリア

14世紀 ハプスブルグ家は既にアドリア海の海岸地域を所有していましたが、交易の発達は遅く、沿岸住民が独自に行っていたのみであり、又彼らは、オスマン及びムーアの海賊から商船を自ら守らねばなりませんでした。当時はハプスブルグ家独自の海軍保有は考えられていませんでしたが、17~18世紀の対トルコ戦争の後、オスマン帝国の河川部隊に対抗し又、陸上の軍事作戦を支援するためドナウ艦隊が創設されました。皇帝ヨゼフ2世の治世時、最終的にはオーストリア海軍を創設すべきとの決定がなされましたが、資金不足の為 少数の軍艦しか保有出来ませんでした。

オーストリアは、カンポフォルミド条約(1797年)により、ヴェネチアとダルマチア地方のみならず、ヴェネチア王国の艦隊を獲得し、これが後にオーストリア海軍の中核となりました。ヴェネチアは、19世紀前半まで オーストリア海軍の主要基地であり、その後はプーラ及びカタロが重要な軍港となりました。戦争を総合的に隊行するという観点から、独自の海軍を保有する重要性、まずヴィルヘルム・フォン・テグットホフ提督によるヘルゴランド島近くの海戦における勝利(第2次シュレースヴィヒ・ホルシュタイン戦争:1864年) 次いでリッサの海戦(普墺戦争時の対イタリア戦:1866年)において実証されました。その後オーストリア艦隊はますます強化され、建造材は木から鉄に変わっていきました。

海軍は、軍事任務の他、国民経済的そして科学的な役割を持っており、数多くの研究航海が行われました。1857年~59年にはフリゲート艦「ノヴァーラ」が世界周航を行ったほか、アジア、アメリカ、アフリカ、オーストラリア、北海への航海がおこなわれました。これら航海の目的はほとんど見習士官の教育でしたが、同時に博物学 民俗学的な研究を行い、又世界の海にオーストリアを誇示することを可能とするものでした。シュパウン、モンテクコリ、ハウスという海軍司令官達の下、第一次世界大戦における近代海軍が創設されました。皇位継承者であったフェルディナンド大公は積極的に新艦建造を推進し、1908年には、オーストリア最初の潜水艦が就役しました。

第一次世界大戦中 オーストリア海軍は特にダルマチア地方の沿岸部防衛に任じていました。連合国がオトランド海域を封鎖し、作戦海域がアドリア海に限定されたためです。1918年、オーストリア・ハンガリー帝国が崩壊したことによりオーストリアは内陸国となりました。かつてのオーストリア・ハンガリー帝国海軍の艦艇は、アドリア海沿岸を継承した国と連合国側に分割され受け継がれました。

海軍のホールは3つのコーナーから成り立っており、各コーナー毎に特別なテーマがあります。

入り口付近では、ドナウ艦隊の発展について時系列でご覧頂けます。左側のガラスケースは、1750年～1850年に活躍した重要な艦船についての展示です。チャイケンと砲付小型船は、オスマン帝国の河川艦をモデルに建造され、チャイケン船員という民間ドナウ川船員により運行されました。ドナウ河の流れに逆らって上流へ向かう航行は出費がかさんだことから、それらの船はその役目を終えた後解体されて薪となり、新たな艦にとって変わられました。右側にあるのは近代的なドナウ艦隊の模型です。1870～72年にかけて建造されたドナウ河モニター艦(大型の艦砲を搭載した小型軍艦)マロスとライタは、砲塔を備えたオーストリア海軍の最初の軍艦でした。合計10のモニター艦が建造され、対セルビア及びルーマニア戦争を通じてその有効性が実証されました。

ホールの左半分には、オーストリアがヴェネチアを獲得して以降1866年のリッサでの海戦までの間の海軍史が掲示されています。最初の2つの棚には19世紀前半の展示品です。1ポンド海軍砲及び教育訓練用砲「ペレ・アライアンス」の隣にあるウカチウス気球投下爆弾は重要な物です。気球投下爆弾は1849年の革命戦争の際ヴェネチア包囲戦において使用され、これは世界の歴史において初めて行われた航空攻撃でした。大きな展示ケースの中には、19世紀の様々な木製艦のモデルがヴェネチアのブリッグ(2本マストの帆船)からコルヴェット艦に至るまで展示されています。アレキサンダーキルヒャーの「リッサの海戦」の絵はこの時代のテーマである海軍を総括的に表しています。

ホール右半分に向かう通路の展示物は、パイヤーとヴェイプレヒトによる、オーストリア・ハンガリー帝国が行った北極探検に関するもので、パイヤーの筆による油絵「二度と戻らない」が掲示されています。

1897年のクレタへの武力介入及び1900年の北清事変鎮圧に関する展示のある棚の上には、近代海軍について展示があります。最も重要な展示物は、第一次世界大戦時の旗艦であったヴィリブス・ウニティスの切断モデル(世界最大級)であり、オーストリア・ハンガリー帝国最後の艦船の構造がおわかり頂けます。オーストリア・ハンガリー帝国海軍においてテゲトホフ級と呼ばれた、このドレッドノート艦の特徴は、右の展示ケースに収められている他の艦船モデルと比較していただければ明らかにお分かり頂けると思います。

他の展示ケースには潜水艦、海軍航空部隊、そして海軍の小さな部隊に関する品が納められています。1918年、タリヤメント河(イタリア)の河口付近で撃沈された潜水艦U20は、帝国海軍の終焉を象徴するものであり1962年に引き揚げられ、当軍事史博物館に引き渡されました。